

令和元年6月26日現在

機関番号：23603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04530

研究課題名(和文) 保育者養成校における演劇を専門としない教員のための劇表現指導教材の開発

研究課題名(英文) Development of the instruction teaching materials of the drama expression for outside teachers specialized in drama in a child-care worker training school.

研究代表者

山本 直樹 (YAMAMOTO, NAOKI)

長野県立大学・健康発達学部・准教授

研究者番号：70586502

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果として、保育者養成校で「保育内容(表現)」の授業内で演劇表現的内容を扱う、演劇を専門としない教員用の劇表現指導教材「演劇を専門としない教員のためのウソとホントの狭間の教育的活用法」を開発した。A5版の52ページの構成で、理論編、実践編、応用編～音楽表現遊びのための準備活動として～にまとめた。

実践編は、学生が行った模擬的な劇遊びを実況中継風に掲載し、その土台となる劇遊び体験、ウォームアップ体験、それらの理論的背景もまとめることができた。また、それを受けて、「保育内容(表現)」の授業の中で、演劇的な要素を取り入れた授業展開の成果を応用編としてまとめることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

開発した劇表現指導教材は、「保育内容(表現)」やその他関連授業において劇的な要素を活用する際に活かせることはもちろん、実習指導や保育者・教員・社会人の研修等で劇表現を活用する際の基礎資料となる。また、他分野でも応用的に活用することで、劇のもつ遊戯性や身体性から生み出される学修に対する主体性や創意工夫性等を活かす授業展開が望めると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The drama expression instruction teaching materials for the teachers who did not specialize in drama as result of this study were developed. There is the title how you utilize "an element between a lie and the truth" educationally. It is 52 pages of constitution for A5. It is comprised of theory, practice, three of the application. The simulated drama play that a student went for as practice was placed in the relay from the spot style. And the drama play experience to lay the foundation, a warm-up experience, those theoretical scenery were gathered up. As application, result of the class development that adopted a dramatic factor was settled in a class of "the childcare contents expression".

研究分野：表現教育 ドラマ教育 保育者養成

キーワード：教育学 保育者養成 劇表現 教材開発 領域表現

1. 研究開始当初の背景

保育者養成カリキュラムの中に、領域「表現」を扱う必修科目として「保育内容(表現)」及び「表現指導法」があるが、ともすれば紋切り型の演技を指導し、段取りを追うことだけを徹底させる形骸的な舞台発表を行う劇的な授業もあるようだが、日常保育の中の劇表現に教育的な意義を見出し、コミュニケーション力の向上に寄与することに焦点化した授業研究(小林、2013)1)や幼児の表現活動指導のあり方に焦点を当てた実践事例の紹介がなされている(花輪、2010)2)。また、児童健全育成の分野ではあるが、日常的な劇表現に関するプログラム開発や海外の現状の報告も含めた総合的な研究も行われている(児童表現活動研究会編、1995/指田、2001)3)4)。

国外では英国、豪州、カナダ等を主に、特にアメリカにおいて「クリエイティブ・ドラマテイクス」という名称で、創造性の開発を目的とした劇表現プログラムが20世紀初頭から起こり、ウォードや弟子のシックスらによって、その理念を受け継いだ多くの教員や保育者が現場に送り出された(小林、2009)5)。近年ではアジアでも台湾や韓国において演劇が正課として導入されている。特に台湾では、2001年に劇を正課として導入するために、音楽や造形を担当する教員に劇的な研修をさせ、劇的授業も担当できる教員とする試みを教育政策として行った6)。

着想に至った経緯であるが、応募者は平成24～26年度科学研究費補助金若手研究(B)「保育者養成における「劇表現指導法」のカリキュラム・モデルと教材の開発」(研究代表者山本直樹)を現在遂行している。劇的な「保育内容(表現)」に着目し、舞台発表を主目的とせず、日常的な劇表現で全体を貫いている授業の内容や方法、担当講師に焦点を当てたが、それに対応する授業は保育者養成校494校の中で16しかなく、講師も10名であることがわかった。むしろ、音楽や造形等を専門とする表現担当の教員が複合的な「保育内容(表現)」の授業の中で劇的内容を担当していたり、15回の「保育内容(表現)」の中で子どもを対象としたオペレッタやミュージカル等の舞台発表をつくり上げるという養成校の方が結果として数倍も多いことがわかった。もちろん、保育者養成における演劇の専門性の確立は課題の一つであるが、それと同時に、学生の主体的な表現を引き出し、自己表現に対する肯定感を高めることができるような、複合的な「保育内容(表現)」の一部分としての劇のあり方、及び舞台発表へとつながる自己表現的な劇的体験の積み上げ方を提案することも、質の高い保育者養成カリキュラムの構築のために必要ではないかと考えた。

<引用文献>

- 1) 小林由利子「ドラマによるコミュニケーション能力育成のための保育者養成プログラム開発」科研費基盤研究(C)報告、2013
- 2) 花輪充「本学保育科・児童学科における幼児の表現活動に関する授業プログラムの研究」『東京家政大学研究紀要』1、2010
- 3) 児童表現活動研究会編「児童の感性・自己表現力を育てる地域の総合的表現活動プログラムの開発研究」『伊藤忠記念財団調査研究報告書』28(研究代表者：小林美実)、1995
- 4) 指田利和「基礎から子ども文化創造の体験までをも含む劇的表現活動のプログラム開発と指導法の研究」『基盤研究(C)報告書』、2001
- 5) 小林由利子、山本直樹他『ドラマ教育入門』図書文化社、2010
- 6) 台湾藝術發展協會、財團法人跨界文教基金會主催「2001 NEW VISION Drama, Theatre and Education - AsiaLink」国際検討会資料、2001

2. 研究の目的

本研究の目的は「保育内容(表現)」の授業の中で、演劇を専門としない教員が劇的要素を意義深く活用することができるための内容や工夫点、展開方法を明らかにし、その成果をまとめた劇表現指導教材として開発することである。これまでの研究は実践的な取り組みや海外の先駆的理論の紹介を通して、教育や保育における劇の専門性を確立させることに主眼を置いていたが、本研究はそれらの研究成果を保育者養成のために再構築し、かつ応用的に活用することを目指すものである。

3. 研究の方法

保育者養成校における演劇を専門としない教員のための劇表現指導教材の開発を行うために、1年目は、文献・資料収集と調査を主とし、日本保育学会での劇的な要素に関する研究動向の調査及び保育者養成校における劇的な授業の開講調査、連携研究者・研究協力者との協議を行う。2年目は、分析と実地調査を主とし、収集した文献や調査結果の分析を行うと共に、助言者が行う劇的な「保育内容(表現)」の授業や保育現場での劇的要素を含んだ実践現場の実地調査を行い、研究成果の中間報告を行う。3年目は、分析、教材化を主とし、実地調査の分析を行う。4年目は、教材化および教材の試行的活用を行い、研究成果のまとめを主とし、開発した教材の修正・報告書の作成・発表を行う。

4. 研究成果

本研究の成果として演劇を専門としない教員用の劇表現指導教材を開発した。題目は「演劇を専門としない教員のためのウソとホントの狭間の教育的活用法」である。その対象は、保育者養成校で「保育内容(表現)」の授業内で演劇表現的内容を扱う教員である。それをふまえてA5版の52ページの構成で、理論編、実践編、応用編～音楽表現遊びのための準備活動として～としてまとめた。

実践編は、学生が行った模擬的な劇遊びを実況中継風に掲載し、その土台となる劇遊び体験、ウォームアップ体験、それらの理論的な背景も研究協力者の下川涼子(アートインライフ)の助力によりまとめることができた。また、それを受けて、同じく研究協力者で音楽表現を専門とする麓洋介(愛知教育大学)の助力により、「保育内容(表現)」の授業の中で、演劇的な要素を取り入れた授業展開の成果を応用編としてまとめることができた。

教材作成で念頭においたのは、養成校における演劇は、学生の作品創作が中心であるが、今回は「保育内容(表現)」である。そのため、学生が授業の中で等身大の表現をしたり、ごっこ遊びのようなイメージの世界の中で無我夢中に遊んだり、そして幼児に対する指導の手がかりを得る際の指導補助となるようにすることである。

特に重視したのは、教材の題目にも含めたが、イメージの要素である。想像、ごっこ、ファンタジー、空想や妄想等、いろいろな言葉で言い換えられるが、演劇的に言えば、嘘と本当の間にある「虚」の要素である。本研究では、虚の状況をよい意味で活用を一つの結論とした。虚の世界で得た経験を現実に生かすことが、教育としての演劇のあり方ではないかと考えられる。近松門左衛門の「虚実皮膜論」においては、「虚」という言葉に「うそ」というルビを当てて、以下のように説明がなされている。「芸といふものは実と虚(うそ)との皮膜(ひにく)の間にあるもの也。……虚にして虚にあらず、実にして実にあらず、この間に慰が有たもの也」⁷⁾ここでいう「皮膜(ひにく)の間にあるもの」とは、客観的に言えば本当ではないが、だからと言って全くの嘘偽りのデタラメとも言い難いものを指す。演劇は、本当でも嘘でもない、その中間の「虚」を当事者達が共有していることが成立条件であり、教材にもその点を意識的に盛り込んだ。

<引用文献>

7) 穂積以貫「難波土産」、『近世論文集』藤村作編、山海堂出版部、1933、p.8-9、国立国会図書館デジタルコレクション

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計8件)

桜井剛、山本直樹「保育内容(表現)における劇的要素を含む授業について」、『清泉女学院短期大学研究紀要』34、19-31、2016

山本直樹、花輪充、桜井剛、安氏洋子、田中淳士「演劇に関する研究の動向 日本保育学会年次大会(2001~2015)における研究発表を中心に」、『有明教育芸術短期大学紀要』7、17-30、2016

山本直樹「卒業研究」における児童文学作品の劇化プロジェクト 幼稚園でのリーダーシアター公演の制作過程を中心に」、『保育文化研究』2、51-62、2016

山本直樹、花輪充、桜井剛、安氏洋子、麓洋介、友永良子「演劇に関する研究の動向 日本保育学会年次大会(1986~2000)における研究発表を中心に」、『有明教育芸術短期大学紀要』8、19-30、2017

山本直樹、下川涼子、麓洋介「保育者養成校における演劇を専門としない教員のための教材開発に関する研究 - 赤ちゃん絵本『ひよこ』の劇遊び実践の検討を通じて -」、『保育文化研究』4、1-15、2017

山本直樹、麓洋介「保育者養成校における演劇を専門としない教員のための教材開発に関する研究 - 演劇的要素を活かした保育内容(音楽表現)の授業実践の検討に基づいて -」、『保育文化研究』5、1-9、2017

山本直樹、花輪充、桜井剛、安氏洋子、麓洋介、友永良子、川合沙弥香「演劇に関する研究の動向 日本保育学会年次大会(1948~1985)における研究発表を中心に」、『有明教育芸術短期大学紀要』9、15-27、2018

山本直樹、友永良子、花輪充、麓洋介、桜井剛、安氏洋子、川合沙弥香、高崎みさと、加藤孝士「演劇創作を通じた他大学との表現ゼミ交流活動の実践的探求」、『こども学研究』1、109-117、2019

[学会発表](計6件)

山本直樹、花輪充、川合沙弥香「演劇を専門としない教員のための劇表現指導教材の研究対象という観点を中心に」2015、第54回全国保育士養成協議会研究大会ポスター発表

山本直樹「保育方法としての演劇の活用 リーダースシアター(朗読劇)に着目して」2016、日本保育学会第69回大会ポスター発表

山本直樹、花輪充「演劇を専門としない教員のための劇表現指導教材の研究(2) 学生に対

する評価を中心に 」2016、全国保育士養成協議会第55回研究大会ポスター発表

山本直樹「少人数における学外上演活動の意義 - ドラマからシアターへの円滑な移行をめざして - 」2017、日本保育学会第70回ポスター発表

山本直樹、花輪充、桜井剛、安氏洋子、麓洋介、友永良子、川合沙弥香「演劇に関する研究の動向調査 日本保育学会年次大会(1948~2017)における研究発表を中心に 」2018、日本保育学会第71回ポスター発表

山本直樹「自己発見や他者理解を促すことも目標とする演劇創作活動の展開 - 小学校や幼稚園等における応用を目指して - 」2018、日本学校教育学会第33回大会口頭発表

〔図書〕(計1件)

友永良子、山本直樹、花輪充、川合沙弥香『劇表現指導における評価のあり方を探る 「遊びのなかの演劇学習会2016」活動報告 』科学研究費助成事業中間報告書165p.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~dramastudy/>

6. 研究組織

(1) 研究協力者

研究協力者氏名: 花輪 充

ローマ字氏名: Mitsuru Hanawa

所属研究機関名: 東京家政大学家政学部児童学科

研究協力者氏名: 麓 洋介

ローマ字氏名: Yohsuke Fumoto

所属研究機関名: 愛知教育大学教育科学系

研究協力者氏名: 友永良子

ローマ字氏名: Yoshiko Tomonaga

所属研究機関名: 修文大学短期大学部幼児教育学科

研究協力者氏名: 桜井 剛

ローマ字氏名: Takashi Sakurai

所属研究機関名: 新島学園短期大学コミュニティ子ども学科

研究協力者氏名: 安氏洋子

ローマ字氏名: Yoko Yasuuj i

所属研究機関名：長野県立大学健康発達学部こども学科

研究協力者氏名：川合沙弥香

ローマ字氏名：Sayaka Kawai

所属研究機関名：東京家政大学家政学部児童学科

研究協力者氏名：高崎みさと

ローマ字氏名：Misato Takasaki

所属研究機関名：東京家政大学家政学部児童学科

研究協力者氏名：加藤孝士

ローマ字氏名：Takashi Kato

所属研究機関名：長野県立大学健康発達学部食健康学科

研究協力者氏名：下川涼子

ローマ字氏名：Ryoko Shimokawa

所属研究機関名：NPO 法人アートインライフ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。